



第314号

平成18年
1月10日
発行新潟県養護教員研究協議会
事務局 新潟県山北町立さんぼく南小学校

即断と即応に感謝

新潟県中学校長会会長 大竹 肇（新潟市立白新中学校）

児童生徒の「からだ・こころ・いのち」のために日々努力されている先生方に、心より感謝申し上げます。

先生方の不断の努力と成果を「新潟県中越大震災に学ぶ：養護教諭としての取組を振り返って」を読んだとき、感動をもって実感することができました。被害を受けたどの学校でも、養護教諭の立場からの刻々と変化する対応とその記録が詳細に記されていること、「保健室の先生」という腕章や名札を表示して113人の先生方が即ボランティア活動を起こしていること、そして、年度内に緊急報告として本誌を発行していることなど、あらゆることが「即断」と「即応」の精神に基づいておりました。このことは、関係の養護教諭個々の力量が高いことにもよりますが、貴会の強力な組織力があってこそと感じないではいられませんでした。私たち管理職にも参考になる実践であり、大変ありがたく思っております。

ところで、年度末に出される当校の「保健のまとめ」には、全校生徒約240人中、年間で948人の生徒が記録上の利用者数とありました。そして、次の文言が付け加えてありました。

「上記の理由のある利用者の他に、ふらっと訪れて昼休みや放課後の居場所に使う生徒、また、授業は休まないまでもただ立ち寄って話をして少し違った空間で気分を変えて教室に戻るといふ生徒が多かった。」

このようなことは、どの学校でも同じように起きている現象であり、年間にすると記録上の2～3倍の数の児童生徒が保健室のお世話になっていることとなります。緊急に対応しなければならない児童生徒か、笑顔で話を聞くだけでよい児童生徒か、学級担任に知らすべきことかなどを瞬時に判断しないと、次の児童生徒への対応ができなくなるわけですから、実に高度な判断力と行動力が求められていることとなります。しかも、児童生徒の「直感」ほど鋭いものはなく、「この先生は私のことを心から思い気遣っていてくれる」と感じるからこそ次々と来室するのであり、養護教諭の先生方はこのことを見事にこなしていることとなります。

ますます多様化するであろう児童生徒のことや今後の学校の在り方を考えると、一人職種の時代に終わりを告げ、複数配置が当たり前になることを切に願っております。

も く じ

新潟県中学校長会会長挨拶	1
文部科学大臣表彰・救急法講習会	2
私の実践	3～5
お隣さんこんにちは	6
保健室へおじゃまします	7
おすすめします・お知らせ	8



文部科学大臣表彰おめでとございます

文部科学大臣表彰をお受けして

長岡市立浦瀬小学校 大野 英子

大津市で開催された全国学校保健研究大会の席上において、このたび文部科学大臣表彰を賜りました。

本会からのご推薦をお聞きした時は、私の様な者には恐れ多いとお断りいたしました。しかし、養護教諭全体の職能の重要さが認められた結果と思い直し、多彩な場で活躍する皆様を代表する形としてお受けすることにしました。また、本会の活動内容や沿革が大きく評価されたものと本当に喜んでおります。

そして、名誉あるこの受賞は、すべて皆様のお陰と深く感謝し、心よりお礼を申し上げます。



救急法講習会

救急法講習会に参加して

梶尾市立上塩小学校 高杉 恵

今回の救急法講習会を受け、本校における救急体制の在り方について振り返ることができました。グループディスカッションの中では、他校の実態・工夫されている点等の意見を聞き、日頃悩んでいた事についてのヒントを、数多く与えていただきました。

また、AED（自動体外式除細動器）を使った実技講習ではAEDについての基本的知識を得ることができました。一定の使用頻度が想定される専門職は講習を受けて使用すると知り、改めて専門職という意識を強くすると同時に、専門職としての力量向上のために研修を積み重ねればと身の引き締まる思いがしました。

元気で明るい子どもたちと共に、成長していけるよう、日々の執務にはげみたいと思います。

救急法講習会に参加して

佐渡市立高千中学校 小島 明子

「この処置が本当に最善なのか…」と迷うことが多い私は、自分自身が救急処置に対して経験不足であることを感じます。そのため、グループ討議で他の先生方からお聞きすることは勉強になり、事例の共有ができて大変有意義でした。実技指導ではAEDの使い方を研修することができました。また、事例のシミュレーションでは養護教諭役を行い、判断に迷うような事例について緊張感をもって考えることができました。冷静な判断力、的確に周囲の人を動かす指示力が大切であると改めて感じました。生徒の命を守るため、一つ一つの処置を的確に行い、救急処置能力を高めていきたいと思っております。

今年も参加してよかった救急法講習会

胎内市立築地中学校 尾崎 節子

毎年救急法には、必ず参加しています。ほとんどの中学校では9月の1、2週目に、体育祭を実施していると思いますが、体育祭での事故対応をシミュレーションするよい機会となります。私は以前勤務した学校での体育祭で、生徒同志が衝突し、その勢いで頭部を強打し、呼吸が停止する事故に遭いました。ドキドキしながらも、なんとか人工呼吸をし、救急車を待っている時の思いは忘れられません。（彼は今は元気です。）又、午前中のグループ討議では、修学旅行中の内服薬の使い方についての話ができました。みなさんの話を聞いて、反省したり、新しい発見があったりで、ぜひ次回の修学旅行では忘れないように活用したいと思っています。

私 の 実 践

小学校の実践

保健室から見た気になる児童への対応

～担任・スクールカウンセラーとの連携を通して～

南魚沼市立中之島小学校 田上敏美

1 はじめに

今年度、養護教諭になって6年目を迎えました。そこで、今年度受講した『5年経験者研修』で進めた実践「保健室から見た気になる児童への対応～担任・スクールカウンセラーとの連携を通して～」について紹介します。

2 研修テーマ設定の理由

当校の保健室には、毎日多くの児童が来室します。その中には、身体の不調の背景に心理的要因が関係していると思われる『気になる児童』もいます。今まで、気になる児童の様子については、保健日誌を活用して担任へ話をしていましたが、『情報提供』で終わってしまい、『連携』まで至らなかったという反省がありました。

そこで、担任と月1回来校するスクールカウンセラー（以下SC）と、養護教諭の3者で問題を共通理解し、それぞれの立場で児童の支援を行うことができないかと考え、テーマを設定しました。

3 実践について

保健室での様子から、私が「気になる」児童は、数人いました。例えば「苦手な学習の前に体調不良を訴え来室する」「人前で話をしなければいけない時になると頭痛・腹痛を訴える」「毎日のように休み時間になると1人で来室する」などの様子が見られる児童です。これらの児童に対して、担任・SCとともに支援を行いました。

気になる児童の1人であるAさんについての取組を紹介します。

(1) Aさんの様子

苦手な学習の前に体調不良（咳や腹痛、頭痛）を訴え、来室します。保健室で休んでいる時は、体調不良を訴えることはなく、具合が悪い様子もありません。しかし、教室に戻るよう声をかけると、症状や訴えがあり保健室で過ごすことが多くなり学習の遅れが問題となっています。

(2) 担任とSCと養護教諭の連携

- ・養護教諭は、保健室でのAさんの様子や心の変化を担当に伝え担任は、それらの情報をもとに母親との面接を行いSCとの面接につなげてきました。
- ・児童への支援の内容や方法について、その都度、役割分担も含めて確認し合いました。

(3) 児童カルテの活用

- ・児童カルテをもとに、児童についての理解を共通にしました。

【児童カルテの様式】

問題点だけでなく、よいことも書きます。

家庭	学校	本人
<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成 ・養育態度 ・家族の児童への思い 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面 ・生活面 ・行動面など 	<ul style="list-style-type: none"> ・性格 ・児童の思い ・児童の発した言葉

- ・SCと話し合いを継続することで、今まで見えなかった問題に気づくことができました。SCの専門的知識が大変役に立ちました。
- ・担任・養護教諭・SCそれぞれの立場での支援内容を明確にすることで、自信をもって児童に対応することができました。
- ・このような取組を続けることにより、Aさんは、苦手な学習にも出席することが多くなりました。

4 おわりに

今回の取組から、児童の支援には、様々な職員との『行動連携（問題のとらえを共通にし、それぞれの立場から同じ歩調で支援すること）』が大切であることを再認識しました。

その前提として各々の見取りを確かに行うことが重要であることから、私は来室した児童の様子についての記録を蓄積・分析することにより、抱えている問題や必要な支援を見抜く力をさらに身につけていきたいと考えています。

中学校の実践

保健指導「喫煙予防の指導」

～将来、あなたはタバコを吸いますか～

新潟市立金津中学校 小川美晴

1 はじめに

旧新津地区では、校地内禁煙を行ってから数年が経過している。しかし、生徒の話を見ると、自宅で禁煙や分煙をしている家庭は少なく、家庭内での禁煙教育は浸透していないという現状である。喫煙は吸い始めてからやめるのではなく、最初から吸わないように指導することが大切であると考え、「タバコを勧められたら断る」ということを中心に指導を行った。

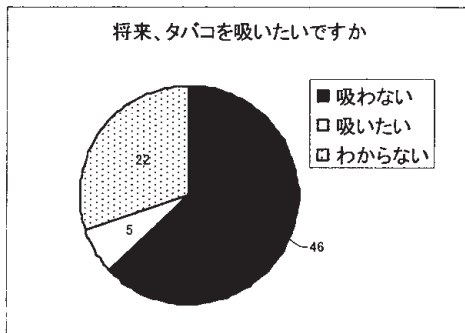
2 実践の内容

1年生を対象に学活の時間を使い「なぜ喫煙がよくないのか」ということを指導した。特に、タバコに含まれるニコチン(依存性)・タール(発癌性物質)・一酸化炭素(血管収縮)による体への害を中心に説明した。その後、「喫煙を勧められたときの態度はどうあると良いか」ということを生徒と考え、自分の意思を態度だけでなく、言語でも表現できるように指導した。

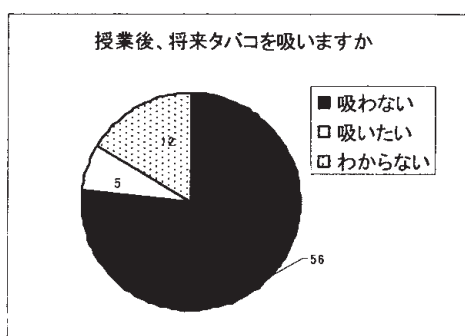
その結果、指導前後で生徒の喫煙に対する姿勢の変化は、下記の通りであった。

設問「将来、タバコを吸いますか？」

授業前



授業後



最後の感想には、ほとんどの生徒が「健康」についてふれていた。また、授業前は「将来、吸うかわからない」と答えていた生徒が授業後は、「将来、吸わない」と答えていたことから意識の変容が伺えた。中には、健康に害があることがわかっていながら、「将来、吸うかわからない」と答えている生徒には、機会あるごとに喫煙防止教育を行っていくことが大切になると考えられる。

タバコを勧められたときの断り方については、紋切り型、無言、とぼけてはっきりと断れないという生徒が多くいた。中に、以前誘いを断れずに吸ってしまった生徒もいた。そこで、はっきりと断ることを身につけさせることが大切であると答えた。今回は、タバコを勧める役を養護教諭が行い、生徒は断ることをロールプレイで行った。生徒は、短い答えではあったが断ろうという態度がみられた。しかし、中には勧められている人物が知人や友達や先輩など、断りにくい相手からの誘いであった場合、断ることができるのかと疑問に思うケースがあった。勧められた時の感想や断った時の自分の心の動きなどを書き留め、それを発表したりすることにより、より深まりのあるロールプレイングが可能になると感じた。

3 おわりに

生徒の感想から「将来、吸いません」という生徒が多くいた中、「吸ってみたい」との思いが強い生徒もいた。そのため、保健指導以外にも、特別活動、道徳、各教科などの指導場面でくりかえし指導するとともに、タバコに強い興味を抱く生徒については個別指導も必要であり、集団指導に個別指導を補充していくことが大切であると考えられる。

高等学校の實踐

性について何をどう伝えるか

県立長岡商業高等学校 小林 恵子

1 はじめに

6年前、初めて高校勤務になりました。ドキドキの4月初っ端、保健室のドアをノックしたのは性の問題を抱える女子生徒でした。待たなしの現実をつきつけられて、私は養護教諭として、この人たちに何をしなければならないのかを改めて考えさせられました。

生徒指導担当者も同じ思いを抱いており、「まずは合同ホームルームに講師を招いて性講話を実施しよう!」ということで、当校の性の指導が始まりました。それがやがて、総合学習のなかに位置づけられるようになりました。

2 総合学習のなかで

毎年、6月末から7月にかけて、総合学習の時間を各学年2時間、性について考える時間として設定しています。

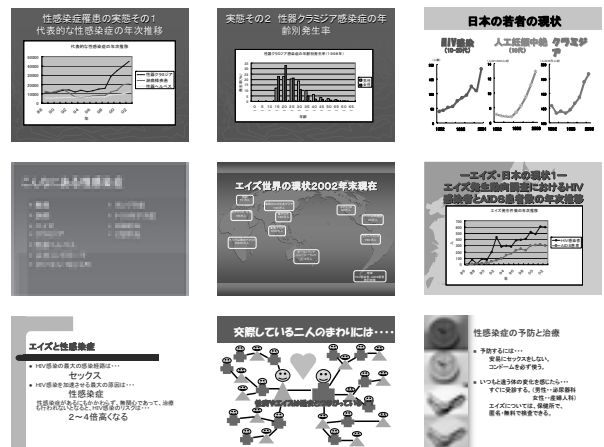
- (1) 目的: よりよい男女の人間関係を築き、生涯にわたって安全で豊かなセクシュアリティを生きる基盤作りを目的として、1学年に1回、性指導に関する専門家による講演会を実施する。
- (2) 実施内容

- ① 1年生テーマ「性のトラブル…医学的側面から」
生徒からの事前の質問事項を織り交ぜながら、性感染症や望まない妊娠とそのリスクについての講話。
- ② 2年生テーマ「性をどう考える」
高校生カップルが妊娠をしたという設定で学年の教員がペアをつくり、ロールプレイをする。妊娠がわかったあとの二人のやりとりを、いくつかのパターンで演じ、考えさせる。
- ③ 3年生テーマ「セイファーセックス…次代に繋ぐ性」
セクシュアルライツとセイファーセックスについての講話。
いずれも、60分の講話の後で学級指導を行います。

3 保健体育の授業で

12月、3年生の保健体育の1時間を、養護教諭による「性感染症としてのエイズ」の授業にあて、実施しています。

自作のパワーポイントとビデオ教材を使い、罹患の現状と今後の動向、感染を防ぐ行動の選択肢、感染した場合はどうするか等々、できるだけ具体的な内容となるように心がけました。



4 おわりに

性の講話や授業を始めた頃は、そのあとで性に関する相談が増え、これも効果のひとつかなと喜んでいましたが、年々、相談の件数が減少しています。性感染症や妊娠出産について、以前の生徒のように、おおらかに、ときには切羽詰まって語るということが少なくなっています。これは9月の性教育研修会での松浦先生の、「性を何とも思わない子が多くなっている」、「性に向かう力が高まらず、人間関係に乗り出す力が高まらず、性への興味関心が高まらない」というお話に符合するような気がします。指導内容・方法を変えなければならない時期にきているのかもしれません。

性は生であると言われて久しくなりました。行動化を促す、心に響く語りかけは永遠のテーマです。

お隣りさん

こんにちは



「こんにちは、長野県です」

長野県学校保健会養護教諭部会

部会長 池田 みすゞ (長野県岩村田高校)

新潟県養護教員研究協議会の皆様、こんにちは。私たちは、長野県学校保健会養護教諭部会です。

平成16年の新潟豪雨、中越大震災では、多くの県民の皆様、児童生徒の皆様が被害にみまわれ、養護教諭の先生方は児童生徒のために奮闘された事と思います。お隣の県の事は他人事とは思えず、新潟県の会長様よりご紹介いただいた冊子「新潟県中越大震災に学ぶ」を、長野県でも多くの会員が購入させていただきました。予期せぬ事態の中、会として、養護教諭として何ができるかを考えられ、タイムリーに行動された姿に頭が下がる思いです。冊子を通して多くの事を学ばせていただきました。ありがとうございました。

さて、長野県の活動を紹介します。県内の幼、小、中、高、自律の各学校に勤める養護教諭775名で構成され、長野県教育委員会にいる教育支援主事の指導助言を受けながら活動しております。部会長含め役員6名、各地区の代表20名で運営しております。

活動内容は、(1)、総会(6月)今年度の活動方針を決めます。県の研修会の前に行いますので委任状も含めてほとんどの会員が参加します。



(2)、研修会(8月)昨年度は県教育委員会と共催でしたが、今年度は養護教諭部会が主催で行いました。テーマは「軽度発達障害児への学校の対応と養護教諭の関わり」とし、シンポジウムと講演会を行いました。(3)、会誌「保健のあゆみ」の発行。今年で第54集となり、会員の実践、研修会の様子、先輩方の声、各地区の様子など、この年の実践、活動を1冊にまとめています。(4)、部会報の発行。年3回、部会の様子や会員の声を関係機関にもお知らせしています。(5)、事務局だよりの発行、タイムリーに会員に連絡したい事をお伝えしています。(6)、研究。2年かけて調査研究をします。平成17、18年度は「障害、疾病を持った児童生徒に対して、どのような工夫、対応をしたか」の実践事例集を作る予定です。(7)、学校医、学校歯科医との懇談会を行います。お互いの要望、意見を出し合い、よりよい学校保健活動をめざして話し合います。(8)、各種全国大会への参加。他県の様子から学ばせていただいています。特に中部ブロック代表者会では、新潟県の会長様から、新潟県の熱心な研修への取組をお伺いしたり、研究集録「耀」などもいただきました。

長野県では今までに2名の養護教諭が教頭となり活躍されております。(現職は1名)今後とも管理職への道も続いていく事と思います。

海のない長野県は、夏の海水浴、学校の臨海教室というと、新潟の海へ出かけていく事が多いです。とても親しみのある新潟県ですので、養護教諭部会としましても、情報交換をさせていただき、両県の養護教諭の資質向上につながればと思います。今後ともよろしくお願い致します。

保健室へおじゃまします

県内初の教科センター方式の中学校で、地域交流ゾーンも併せ持ちます。県内外から視察の方が訪れ、私たちがおじゃました日も新潟大学のゼミ生と一緒にになりました。



聖籠町立 聖籠中学校

収納ベットが3つ。簡易ベットと合わせて、保健室には4台のベットがあります。



校内ランでつながれたパソコンを使って、先生方と連絡を取ります。処置台も隣りで使い易い配置。

大容量の棚は、ファイルや書類だけでなく健康に関する本も置ける機能的な作りです。



保健室の隣には、シャワー室が2つ。出血のひどい時に便利です。



阿部恵理子先生

健康センターとしての役割を果たし、誰でも活用しやすいオープンな保健室、心身の癒される場としての保健室経営を目指しています。

清潔で家庭的な流し台。すっきりと冷蔵庫も納まっています。



校内にある

聖籠町子ども健康相談所

☆乳幼児、学童、生徒までを一貫してサポートできるシステムとなっている。



相談員の高橋さん



保健室に隣接されたカウンセラーとの相談室。広さも設備も充実しています。

おすすめします！

こんな本・教材・HP

**保健指導・保健学習・集会活動は勿論、えっ？
こんな領域まで?! とても役立っています**

新発田市立佐々木小学校 伊藤朝子

毎回、指導時には資料や発問で悩むことが多い私ですが、そんな時に、まずお世話になっているのが『インターネット



ランド (通称TOSSランド)』です。このホームページは、向山洋一さんが代表を務める、教師・指導者・保護者・子ども自身の学習指導に役立つ教育・授業の実践サイトです。

保健学習や保健指導、集会活動、委員会などで参考にさせてもらっていますが、どなたの指導実践も、発問や資料、指導風景、更に指導時の児童や生徒の反応まで具体的に載せてあり、本当に実用的です。また、掲示資料や手作り紙芝居などがカラーで掲載されているのも、インターネットならではの事だと思います。適宜、新しい指導が追加されるので、正に生きている専門書といった感じです。このサイトのお陰で、我が校には健康に関するクイズや紙芝居など、様々な資料が随分増え、子どもたちや先生方からも好評です。子育てやこどもの自由研究などのページもあり、実に内容豊富です。皆さんも是非一度アクセスしてみてください。

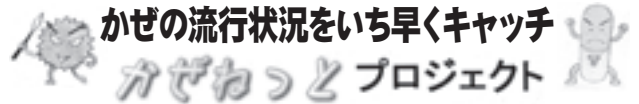
(インターネットランド主宰TOSS)
<http://www.tos-land.net/>

お知らせ

全国養護教諭連絡協議会主催の第11回研究協議会が開催されます。たくさんの皆様の御参加をお願い致します。

日時 平成18年3月2日(休)9時30分～16時30分
会場 東京メルパルクホール

※詳細は各地区代議員から配布された資料を御覧下さい。



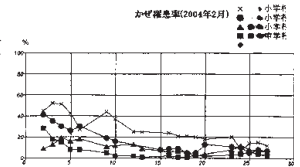
荒川町立保内小学校 岩澤邦子

荒川町では、今年の冬から「かぜねっとプロジェクト」を活用させてもらっています。町内小中学校のかぜ罹患状況をいち早くキャッチし、各学校の集団かぜの予防と対策に役立っています。

かぜねっとプロジェクトというのは、朝の健康観察により集約された児童生徒のかぜ罹患状況を、各学校のインターネットに接続された端末から入力することにより、学校毎、地域毎の集団かぜ発生状況を把握できるシステムです。

毎朝、自校の欠席者と罹患者の数を入力するだけで、右下のグラフデータが一括表示されます。また、印刷も可能なのですぐに資料としても使えます。

近隣の学校に呼び掛けてはじめてみてはいかがでしょうか。登録するのも簡単です。地区で世話を決めて次のことを連絡するだけです。



- (1)地区名
- (2)世話人の所属(学校名)・氏名・電話番号・E-mailアドレス

村上岩船地区では、今年の冬からは始める学校もあります。インターネットを開き、「かぜねっとプロジェクト」と入力するとお試しページもありますので、ぜひ開いてみてください。

※入力の際は、必ず管理職の了解を得る等、情報管理には十分注意してください。

(弘前大学教育学部附属教育実践総合センター)
小山智史作 (koyama@cc.hirosaki-u.ac.jp)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。皆様、2006年をどのような思いで迎えられるでしょうか。昨年は、児童生徒が巻き込まれる、いたましい事件が多くありました。今年こそは、明るいニュースが多くなることを期待したいですね。会員の皆様にとっても、すばらしい一年なることを願っております。

(会報担当 富樫・平・高橋)